

# JFM だより

## INDEX

融資の実	沖縄県うるま市 うるま市役所庁舎	——	P01
	がんばる公営競技 豊橋けいりん	——	P05
	JFMトピックス	——	P07
	自治体ファイナンスよもやま話	——	P09
	地方支援ダイアリー	——	P11
	基金運用ひとくちメモ	——	P13
	人事交流日記&ふるさと紹介	——	P14
	編集後記	——	P14
	機構からのお知らせ	——	P15
	私たちもJFM債買ってます！	——	P15

今号の表紙

## 沖縄県うるま市 うるま市役所庁舎





Feature1

沖縄県うるま市  
うるま市役所庁舎



# 市民のサービス向上と 効率的な行政運営を目指した新庁舎

うるま市は、平成17年4月に2市2町が合併し誕生しました。市のほぼ中心部に位置する旧具志川市役所を市役所本庁舎とし、旧市町の4庁舎を活用した分庁方式で10年に渡り業務が行われてきましたが、平成28年1月、うるま市統合庁舎として新庁舎（東棟）が開庁し、より一層の市民サービスの向上や業務の効率化が図られています。



人々を迎える明るい南側玄関



隣接する公園



免震装置



太陽光パネル



床に敷かれた勝連トラバーチン

## 市民や利用者の利便性向上を目指して

うるま市では、旧市町の4庁舎を活用して業務を行ってききましたが、様々な機能が各庁舎に分散していることで、市民が庁舎間を行き来しなければならない不便が生じたり、職員の移動にも時間がかかるなどの問題がありました。「市民の利便性をはじめとする行政サービスの向上はもちろん、合併のひとつの目的である行政のスリム化を図るという意味からも、平成20年3月の市議会で当時の市長が統合庁舎の必要性について答弁したのが庁舎建設のきっかけとなりました。」(うるま市役所の御担当者/以下「」内のコメント同じ)

その後、平成23年3月にうるま市統合庁舎基本構想が策定され、同年4月に庁舎建設室の設置とともに、本格的に事業がスタートしました。

### 青い空や公園の緑に映える シンプルで柔らかな外観

庁舎の建設は平成25年11月から約2年に渡り、平成27年12月26日に落成式を迎え、平成28年1月4日に開庁しました。新庁舎(東棟)は、青い空や公園の緑に映える白を基調とした外観で、列柱の直線と波を表すかのような曲線が交わり、大きなガラス面と相まった、やさしく柔らかな表情を創り上げています。

「もともと、ここは市民広場として活用していた開放的な場所でしたので、建物の高さもなるべく抑え、周囲に圧迫感を与えない景観に配慮したデザインを目指しました。また、敷地の北側には住宅が多いので、住宅側に接近しすぎない配棟計画や隣接する緑地広場とのつながりや旧本庁舎(西棟)との一体化を考えて設計しました。」

新庁舎の資材には地元の自然素材も活用されており、入口付近の床には勝連トラバーチンという白い天然石が敷かれています。これは、うるま市勝連地区で採取される琉球石灰石で、珊瑚が長い年月を経て石化したもので、日差しによる温度上昇を抑える特性を持っています。

「建築上の特徴として免震構造を採用していますが、建物の基礎部分に免震装置を設けるのではなく、地下駐車場の空間を有効利用する形で柱頭免震構造を採用しているのが特徴です。これにより地震の揺れを低減し、躯体の変形や移動を抑え、安全性を確保することで重要な防災拠点としての機能を保全します。」

さらに、津波対策として、電気室や機械室、サーバー室などの重要な施設については、2階以上に配置し、万一停電になった場合でも役所機能を維持できる非常用発電設備も整備されています。

その他、夜間に外気を取り入れ、建物内に蓄積された空気を排出することで室温を制御するナイトパーージ機能をはじめ、夜間電力で蓄熱層の水を冷却して昼間の冷房に活用したり、太陽光発電を導入するなど、環境への配慮や省エネルギー化にも積極的に取り組んでいます。



直線と曲線が織り成すやさしく柔らかな表情



周囲に配された回廊

## 総合窓口としての機能を目指す 窓口サービス課を新設

新庁舎（東棟）は、建物周りに回廊を設け、どこからでも入られるような工夫がされています。また、旧庁舎（西棟）と渡り廊下で繋げ、機能性に配慮されています。内部は大きな吹抜が特徴となっていて、フロアの中央部分に広いロビーが設けられているため、見通しもよく、間仕切りのない開放的な空間で、市民が心地よく利用できる庁舎となっています。「東西2棟からなる統合庁舎として整備し、新庁舎（東棟）の1、2階には、

市民の利用頻度が高い窓口機能を集中して配置しました。」

平成28年度から市民サービスの向上と総合窓口を推進するため、市民課を『窓口サービス課』とし、窓口サービスの強化を図っています。市民が円滑にサービスが受けられる仕組みで、その運営の一部を民間に委託しています。

統合庁舎となることで公用車の削減やそれに伴う燃料費の抑制など、業務の効率化とともに行政のスリム化を目指しますが、市民サービスの低下を招くことがないように、住民票の発行業務、納税関係、福祉窓口等の業務は引き続き各分庁舎（出張所）でも行われています。



西棟をつなぐ渡り廊下



開放感のある1階ロビー

## うるま市内に本校を持つ N高等学校が開校

うるま市の将来人口は、平成40年をピークに減少に転じると推測され、市税収入の見込める生産年齢人口はすでに減少傾向にあります。少子高齢化へ移行しつつある状況の中、うるま市を若い世代にアピールできる『N(エヌ)高等学校』が平成28年4月に開校しました。これは民間の学校法人が運営するインターネットを利用した通信制の学校で、学校教育法に定められた高等学校です。第1期生として1500人程度の生徒が学んでいます。「全国に生徒がいて、基本はインターネットを介して授業を受ける形態ですが、うるま市の最東端にある伊計島に本校が設置されています。校舎は廃校した小中学校を活用したもので、年に5日間はここでスクーリングが行われるので、希望する生徒はうるま市を訪れることになります(首都圏エリア・近畿エリア等でのスクーリングも可能)。また、学校が独自に行う各地域の特色ある職業体験プログラムも設けられており、うるま市ではパイヤや黄金芋の収穫、和洋

菓子の製造・販売などの体験も予定しているそうです。伊計島を訪れる生徒と地元の方々との交流を通して、地域の活性化につながったり、地域に愛着を持ってくれる若い方が増えてもらえればいいと思います。」



N高等学校入学式

新庁舎は、統合庁舎の名が示すように、旧2市2町のまとまりを象徴する建物でもあります。うるま市が誕生して10年、ここは市民の未来を見据え、豊かな自然や文化資源を活かし、あらゆる世代にとって暮らしやすいまちづくりを進めていく拠点となっていきます。

## 自然や文化、観光資源に恵まれたまち 沖縄県うるま市

沖縄本島の中部東海岸に位置し、県都那覇市から北東に30kmほどの距離にあるうるま市は、平成17年4月に、具志川市、石川市、中頭郡勝連町、中頭郡与那城町の2市2町が合併して誕生しました。市名は、さんごの島という意味の沖縄の言葉「うるま」から名付けられました。金武湾と中城湾に面し、南東部に広がる勝連半島の北方や東方の海上には有人、無人の島々が浮かび、海洋レジャーに適した多くの海浜を擁するなど、美しい風景と豊かな自然環境に恵まれたまちです。

気候は、亜熱帯海洋性気候に属し、月別の平均気温は17°Cから29°Cと、年間を通じて温暖です。見所のひとつである離島4島をつなぐ全長約5kmの海中道路は、見渡す限り青い海が広がる沖縄県内でも人気の高いドライブスポットと

なっています。また、年間約17万人の観光客で賑わう世界遺産群のひとつである勝連城跡は、12～13世紀に築城された勝連城の遺跡で、最上部の一の曲輪(くるわ)からは、北部の山々や離島を望むパノラマを楽しむことができます。うるま市には貴重な歴史遺産や文化財が数多く保存され、沖縄に古くから伝わる踊り「エイサー」や獅子舞、闘牛などの伝統文化が若い世代にも受け継がれています。

うるま市では、自然や文化、観光、農畜産物などの地域資源を活かしながら、健康で安心して暮らせる、安らぎとるおいに満ちた市民主役のまちづくりを推進し、市民と協働して「魅力あるうるま市づくり」に取り組んでいます。

### 沖縄県うるま市

人口 122,098人(平成28年5月1日現在)  
世帯数 49,702世帯(平成28年5月1日現在)  
面積 87.01km<sup>2</sup>



人気のドライブスポット「海中道路」



世界遺産「勝連城跡」